

絵本大賞 (子どもの部)

「じかんは大切」

荒川区立尾久宮前小学校二年

古川 諒

やなぎだ先生、こんにちは。ぼくは、みや前小学校の二年生です。

ぼくは、「ながーい5分みじかい5分」を読みました。ぼくの学校で、図書の先生が、この本をしようかいしてくれたときに、とてもおもしろかったのと、もっと読んでみたいと思ったのでえらびました。

いちばんえらいと思ったのは、しゅ人公の男の子が、大人が言ったことをひていしながらも、大人

の言うことを聞いているのでえらいと思いました。読んでおもしろいと思ったことは、ゆう園地にむかう車の中では5分があつという間だったのに、ジェットコースターの行れつをまっているとき、

「あー、まっているうちに人生がおわっちゃうよー。」

としゅ人公の男の子が言っているところです。

ぼくがながーいとかんじる5分は、お母さんとりゅうせいぐんをさがすとき空をみわたす5分と、お母さんがつくるりょうりをまっているときの5分です。

はんたいに、みじかくかんじるあつという間の5分は、友だちとあそんでいるときの5分と、学校で外あそびができる休みじかんです。

たっているじかんは同じ5分なのに、こんなふ

うにかんじるのはふしぎです。

この本を読んで、ながーくかんじる5分はたいくつなとき、みじかくかんじる5分は楽しいとき、うれしいとき、しゅう中しているときだということとが分かりました。

やなぎ田先生、ぼくはこれからたくさん楽し
いじかんをふやせるようにしたいです。学校では、
友だちとけんかをしないで、なかまをだいじにし
ていきたいです。おうちでは、しゅくだいをはやく
おわらせて、かぞくですごくじかんをだいじにし
ていきたいです。そして、毎日楽しい5分をふやし
ていきたいです。やなぎ田先生も、楽しい5分をた
くさんふやしてくださいね。

柳田邦男先生からのメッセージ

古川くんの感想文を読んで、すばらしいと思
ったのは、次の三点です。

一つは、絵本「ながーい5ふん みじかい5ふん」
を読んで、「おもしろい」と感じたところを、具体
的にしっかりと書いている点です。ふだんは時間
というのは、だれにでも、いつでも、同じようにす
ぎていくものだと思いこんでいますが、実に
自分が生活のなかで感じている時間の長さという
のは、「何をしている時か」によってちがっている
のですね。

古川くんは、この絵本を読んで、遊園地に向かう
車のなかでは、5分はあっという間にすぎていく
のに、いよいよ遊園地に着いて、ジェットコースタ
ーに乗るための順番を待つ時の5分がすごく長く

感じるというちがいが書かれているところを、「おもしろい」と感じた。しかも、待っている時間がいらいするほど長く感じるので、「あー、まっっているうちに人生がおわっちゃうよー。」と、主人公が言う言葉が「おもしろい」ので、その言葉を絵本からぬきだして書いてますね。こういう書き方を「引用」と言います。感想文を書く時に、「すばらしい」「感動した」「めっちゃおもしろい」と感じた言葉や文を引用するのは、だいたいポイントです。

私がすばらしいと感じた二つめは、絵本で気づいた「時間の長さの違い」を、自分自身の生活のなかで感じていることにあてはめて実感を深めている点です。

具体的には、夜空で流星群をさがす時や、お母さんがつくる料理を待つ時は、5分を長く感じるの

ですね。これに対して、友だちと遊んでいる時や、学校で外遊びする休み時間は、あっという間に過ぎてしまうという。古川くんがどのような毎日を過ごしているかが目に浮かぶような文で、すばらしい気づきです。

そして、三つめは、なぜ同じ5分なのに、長く感じる時と短く感じる時のちがいが生じるのか、その理由を考え、しっかりと書いている点です。

長く感じるのは、何かをしていることが（あるいは何もできなくて）たいくつな時であり、時間を短く感じるのは、楽しい時、うれしい時、気持ちが集中している時だと分かったというのです。

これらの三つの点は、絵本に限らず、本を読んだ時に、自分はこの本で、どのようなところに感動し、あるいはどのようなことに気づいたのか、さらに

ものごとの考え方について、どんなことを学んだのかといったことを、頭のなかで整理するために必要なことです。古川くんは、小学校の2年生で、そういう「頭の体操（使い方）」ができるようになったんですね。

しかも、これからは「楽しい時間」をふやして、時間を大切にしていきたいと言います。

世の中の大人たちも、古川くんのような心がけで、本を読むようになると、家庭も世の中も、もっと心の豊かなものになると、私は思います。古川くんには、大きな拍手を送ります。